

## 第35回加西市公共交通活性化協議会（最終版）

日時：平成30年3月26日(月)

14時30分～15時53分

場所：加西市役所 5階大会議室

### 【開 会】

○事務局 失礼いたします。定刻がまいりましたので、ただいまから第35回加西市公共交通活性化協議会を開会いたします。なお、本日本市議会が開催されていまして、終了が予定より遅れております。そのため、関係委員については、少し遅れて参加になりますがご了承いただきますようお願いいたします。委員の皆様には公私ともご多忙の中をご出席賜りまして、ありがとうございます。まず、会長から挨拶をというところでございますが、本日は割愛をさせていただきます。

本日の資料の確認をさせていただきます。事前配付しました次第、それから宇仁地区地域主体型交通導入検討第2回アンケート調査結果、パブリックコメントの実施概要、それから加西市地域公共交通網形成計画案に加えまして、本日お席に配付しております座席表、委員名簿、それから第32回公共交通活性化協議会の議事録、宇仁地区地域主体型交通導入検討の追加資料でございます。もし、不足等がありましたら、事務局のほうにお知らせをいただければと存じます。

○事務局 ありがとうございます。また、第32回の議事録につきましては、前回に皆様からいただきましたご意見を修正、反映したものを最終版としてお配りしております。この議事録から委員名を除いた形で、市ホームページで公開したいと考えております。

では、次第に基づいて進めさせていただきます。この後の進行につきましては、議長に引き継がさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長 皆さんこんにちは。本来は会長より熱いご挨拶をしていただくということになるのですが、また追々来られたときに熱いお話をさせていただけるかと思っております。本日、年度末の大変お忙しいところ、お集まりくださいまして誠にありがとうございます。今日の議題は、報告事項で、宇仁地区の地域主体型交通の話があります。傍聴に宇仁地区の代表者の方もいらっしゃっているということで、またよろしくお願いいたします。

それから、協議事項では加西市地域公共交通網形成計画ということで、これは加西市のこれからの公共交通だけでなく、交通のあり方、都市のあり方に非常に大きな関わりを持つ計画でございます。皆様もご承知の内容をベースに、本日は案を最終の計画としてこの会議でまとめていくことになると思います。皆様の熱心なご参加、それからご討議をお願いしたいと思います。

それでは、議事を進行させていただきます。議事次第をご覧ください。まずは報告事項です。宇仁地区地域主体型交通導入検討にかかるアンケート調査の2回目ということで事務局からご報告をお願いします。

○事務局 宇仁地区地域主体型交通導入検討第2回アンケートの調査結果という資料をご覧ください。前回に第1回目の調査結果をご報告して、今回は第2回目の調査ということで、11月から12月にかけて宇仁地区でアンケートを実施されています。その調査結果でございます。まず、1ページ開いていただきまして、第1回目のアンケート調査で、移動、外出に困っていますと答えられた方を対象にアンケートをとっています。1回目、昨年春ですからちょうど1年前にとった際には、困っていると回答された方が85名いらっしゃいましたが、1年間がたち、この第2回目の調査では、新たに追加して利用したいという方がいらっしゃったり、逆に利用意向がなくなったりした方がいらっしゃいまして、最終的に78名の方にアンケートをとっておりますので、結果は

この78名の方の回答状況となります。2ページです。この調査は基本的には本人に回答をいただくことになっていますが、62%は本人が回答され、残りの方はご家族の方が回答されています。宇仁地区内の全6町ございまして、合計値で説明をさせていただきます。町ごとの数値も掲載していますので参考資料としてご覧ください。3ページは、この78名の方が実際にどこに外出するのに困っているかということ进行调查していきまして、上から順に回答数が多い施設になっています。一番多いのが加西病院で、27名の方が行きたいと回答されています。その次も、まえだ内科クリニックということで、病院に行きたいという方が多くなっているのがわかるかと思えます。続いて多いのが、Aコープ、イオンモール加西、場所は問わずとりあえず買い物先といった方で29名ほどいらっしゃいます。通院もしくは買い物で外出したいとおっしゃる方が多くなっています。そのほか、さらに下に少数意見等もございまして、病院に関しましては、西脇市ですとか、加東市、姫路市等、少数意見も含めて近隣市町を含めいろんな場所に行きたいと回答されています。買い物に関しては、加西市内のイオンやコープに行きたい方と、滝野のAコープに行きたいという方が半々ぐらいに分かれているところでございます。

続いて、4ページですが、外出したい頻度ということで、これも月1回以下という方が36%、月二、三回という方が31%、週に一、二回にという方が26%程度いらっしゃいました。同じく、行きたい曜日もしくは時間帯ですが、5ページ一番下の合計表で、火曜日、水曜日あたりが一番多く、月、木、金にそれぞれ散らばっています。また、土曜日でも少数ですが、外出したいという方がいらっしゃるという結果になっています。

続いて、7ページになります。行きたい時間帯もしくは帰りたい時間帯です。行きたい時間帯が青のグラフ、帰りたい時間帯が赤のグラフです。行きたい時間帯は、9時、10時あたりが多くなっていきまして、帰りたい時間帯は11時、12時台あたりが多くなっています。

続いて、9ページです。歩行可能な距離ということで、今後バス停等設置する場合にどれぐらいのバス停が必要かを検討する資料となる質問ですが、ほとんど歩けませんとおっしゃる方が29%、3割弱いらっしゃいます。100メートルから500メートルの間でそれぞれいらっしゃるのが45%、1キロ以上歩けますという方も逆に26%程度はいらっしゃいますので、身体的には78名の方にはばらつきがあるのかと思えます。

続いて、10ページですが、電話の予約をすることに対して抵抗がありますかという質問です。デマンド交通等を検討する際の資料で、56%の方が特に問題ないと答えられています。しかしながら、逆に耳が悪いため電話がしにくいという方が25%、4人に1人はいらっしゃいます。また、電話はできるけれども面倒だと感じられている方も16%程度はいらっしゃいます。

続いて、11ページになりますが、料金等についてですが、もし地域主体型交通が導入された場合に利用料金がどれぐらいであれば払えますかということで、最も多かったのが300円で35%いらっしゃいました。続いて、500円で23%。ほとんどの方は、それなりに費用を払ってでも地域主体型交通を使いたいと回答されています。

続いて、12ページになります。ここまでの資料は地域主体型交通導入の検討を考える際の具体的な資料となる部分ですが、ここからは現在の78名の方の公共交通の利用状況等を聞いています。コミバス国正線を今まで利用したことがありますかという質問には74%の方が利用したことがないと回答されています。利用したことがない方の理由といたしまして、次の13ページ一番下のグラフになります。利用したい時間にバスがないという回答が54%、バス停が遠いという回答が50%ございました。

続いて、15ページですけれども、地域主体型交通の利用意向として、もし実現すれば利用しま

すかという質問に対して、36%の方が困っているのぜひ利用したいと回答されています。逆に37%の方は、家族等に送迎してもらおうほうがよいと回答されています。この質問ですけれども、第1回目の調査におきまして送迎をお願いすることについてどのように感じていますかという質問がございました。その質問の中で、送迎をしてもらっている方の74%の方はお願いするのに気を遣うと回答されています。また、逆に送迎をしている方に対する第1回目のアンケートでは、55%の方は都合が合うときだけ送っていますと回答され、用事を休んで送っていますという方が23%いらっしゃいましたので、総合的に考えていく必要があるかと考えています。

この質問に関連して追加資料を本日お配りしています。「宇仁地区地域主体型交通導入検討第2回目アンケート調査結果追加資料」という資料になります。この資料で、利用したい頻度と利用意向をクロス集計しています。月に2回以上利用したいという方は困っているのぜひ利用したいという割合が高くなっており、月1回以下、1回1日以下の利用希望の方は、どちらかという家族に送迎をしてもらおうほうがよいと答えられています。②番はさらに細かく、週2回以上、週1回、月2回、月1回と分類しています。

16ページについては、自由記述でご意見をいただいています。

17ページは、アンケートの調査票を添付しています。

以上が宇仁地区の地域主体型交通導入検討にかかるアンケートの第2回目の結果でございます。

○議長 ご説明ありがとうございます。ただいま報告事項の宇仁地区の地域主体型交通の導入検討にかかる第2回目アンケート調査結果の報告を事務局からしていただきました。これにつきましてご意見、ご質問をお願いします。どうぞよろしく願いいたします。

○委員 非常に詳しいアンケートをしていただきました。いくつか思うのですが、まず1点目、アンケートを受けた人のバスのイメージがそれぞれ違うのかなと思います。例えば、鍛冶屋町なら端から端までいろいろあるわけで、どこでバスが停まるのか、自分の家へ来てくれるのか、どこに停留所があるのかなどによってアンケート結果が変わるかもしれない。だから、宇仁のバスとしては大体これぐらいを考えていますよというようなイメージを持ってもらって、改めて調査しないといけないのでは。例えば、歩けない人が十何人もいます。その人は自分の家の近くまでは来てくれると思って回答されているのかどうか。実際にできて、停留所と家に距離があると、せっかく導入するのに使えないとなる。その辺もこのぐらいの交通になりますと、それに対してあなたはどうかされますかというように質問をしないといけない。今はこれでいいと思いますが。

それから、2点目。足の確保が非常に大事ですが、これを見ると、やはり他の地域へ行きたい方も一定ある。小野もあるわ、滝野もあるわ、姫路の病院もあるわとなっている。今、宇仁がやろうとしている地域交通がどういう方面に行くのかということもある程度イメージをしておかないと、落胆されるということもあるので、その辺は詰めてもらった方がいい。

それと、3つ目。僕が思うに、買い物はやはり地域の中でしてもらった方がいい。これは私の考えで、私も九会でやろうとしているのが、買い物は地域の中で何とか回ってもらおうかと。必要なのは、例えば病院とか市役所とか、そういう部分はできるだけ公共交通を使うようにしないと、病院も買物も両方ともどこにでも行くというのはなかなか難しいかなという思いがしています。

以上です。

○議長 ありがとうございます。バスのイメージ、アンケートやるときにどういうイメージを持ってもらっているかというご質問で、あとはご意見でしょうか。これからの検討事項をいただいたと思います。アンケートするに当たって、事前に地域の人たちとどういう話をしたかというあたりで説明を追加いただきたいです。

○事務局 アンケートの実施については、各地区の区長様にお願いして実際には1軒、1軒回ってもらったというところでございます。地域の区長さん方がイメージされたことがそのまま伝わったかどうかというのは定かではありませんけれども、地域主体型交通ということで、我々その前提の中で具体的にデマンド型なのか、定時定路線型なのか、その辺もアンケートの中で聞いて検討していくということで、具体的なイメージは、それぞれアンケートをとっていただいた方、それからアンケートの対象になって回答された方の中でもはっきりとはイメージされてなかった可能性はあるかもしれないです。

○議長 ということは具体化していくとき、もう少し共有していかないと、今、委員がおっしゃったように、イメージとずれてしまうとせっかく導入してももったいないねという話になるかもしれませんから、そのあたりはどこかできちんとすり合わせる機会が必要だと思います。

○委員 共通のイメージを持って、それに対して答えるということも大事なことだと思うのですが、この回答の中に部分的であれ、こういうものができたら使いやすいなというものがあるのかなと思います。そうであればそれぞれの方が、誰もがバス停は自分の家の近くにというのであれば、それはそれで大事なご意見だろうと思います。イメージとの違いというものも、なるべく明らかにして、それをうまくすり合わせられるようなものになればいいと思います。こういうのは実際調査していただいた方に実状をうかがったらどうでしょうか。

○議長 もう幾つかご意見など出てから、せっかくですので、宇仁地区の方からもご意見をいただきたい。アンケート調査の中身について、他にご意見いただいてからにしたいと思いますが、ほかにご意見、ご質問はいかがでしょうか。では、いきなりで無茶振りになるかもしれませんが、アンケート調査の2回目を実施されて、地域の皆さんのご感触であるとか、この内容で表現できているものと、表現できていないものがあるかもしれませんので、そのあたりご忌憚ないご意見をいただきたいです。実際やられたご感想を含めてご紹介をいただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

○宇仁郷まちづくり協議会 それでは、失礼いたします。今、委員からお話がありましたけれども、アンケートをとるときにどういうものが走るのかということ承知してもらった上でアンケートをとられたかということですが、これは何人乗りのバスとか、それからどういうコースを走ってとか、そういうことについては、まだそこまでの説明はしないでアンケートをとっています。それで、この前に、人口増政策課から宇仁郷の幹事会で説明してもらったのですけれども、そのときに今からこのアンケートを参考にしてどうまとめていくかということについて検討委員会というものを作って、皆さんの意見を聞きながら1つ1つまとめていこうと、そういう思いであります。このアンケートの中で、今も話が出ていましたけれど、意外と宇仁地区の方は、特に東のほう、国正とか、それから小印南など、田谷も含むかもしれませんが、意外と加東の方へ出られている人がいる。これを採用して運行するについては加東まで走らせるということができるとどうなのかという話も出ましたけれども、これはなかなかいろいろ加東市との話もあるし、また路線バスが走っていますので、その辺の関係もあるので、これは今からいろいろとそういう方面の方と相談をしなければならぬというふうなこともおっしゃってありました。

私、この第2回目のアンケート調査の結果でちょっと気になることは、あまり歩けないという方が多いことです。今も話が出ていましたけれども、本当に家の近くまで行くような方法をとるのか、それとも停留所を決めてそこまで家族の方に送ってもらうとか、そういうふうな方法になるのか、その辺の方法についてもこれは今からの検討課題です。委員の方々の知恵も借りながらやっていきたいと思います。これが回答になったかどうかわかりませんが、以上です。

○議長　ありがとうございます。地域の方のご意見をアンケートだけでなく生の声をまた聞かせていただけたらありがたいと思います。アンケート調査の中身についても今補足的にご説明いただき、ありがとうございます。現在こういう2回目のアンケート調査の結果で本当に気になるのは、歩行距離がほとんど歩けない方が29%と結構いらっしゃるので、この人たちはこういう移動支援をする仕組みで対応できるのか、もっと別のサポートをしてあげないといけないのか、そのあたりもちょっと考えないといけませんね。基本的にはやはりバスは乗り合いの乗り物で、歩けることが原則になりますから、バスに乗られても、歩けない方にはバスに乗って動くということがなかなか難しいかもしれません。誰かがサポートすれば当然それは可能でしょうけれども、そういう仕組みにするかどうかも含めて、ちょっと検討が必要かと思います。

○宇仁郷まちづくり協議会　バスの運行ということも、もうこれは最初からバスということで出発しているのですけれども、アンケートの中ではタクシーの割引券というようなものはどうなのかなというお話も出ています。これはとても、今からそんなことはできるのかどうか、なかなか難しいものもあると思います。

○議長　まず、そうやっていろんな議論をしていただいて、きっと皆さんが満足できる一つの答えというのはなかなか難しいのかもしれませんが、できるだけ多くの人に移動していただいて、元気な状態を続けていただくというのが目的ですから、その目的に少しでも近づくように一つの答えを、一つになるかどうかはわからないところがありますけど、見つけていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○宇仁郷まちづくり協議会　こちらこそ、どうぞよろしくお願い致します。

○議長　ほかにご意見、ご質問ございましたら。

○委員　前回もこの記録にもありますけれども、宇仁地区の特徴も含めていろいろとしていただいていますけれども、今回のアンケートの結果を見て、やはり本当に歩けない方、もしくは隣近所までが限度ですという方が4割いらっしゃる。ということは、本当にやはり地区の隣保内ぐらいのところまで車で行かないと、その方は外出できないというのがはっきりこの数字であらわれてきたかなというふうに思いました。そういった結果があるにもかかわらず、このアンケートの最後の問16には、バス型かタクシー型かという中の質問があり、バスは予約せずに来てくれますよ、じゃタクシーは予約しなきゃだめですよという趣旨が書いてありますけれども、予約することによって隣近所まで来てくれますよという部分が表れてないわけです、タクシーの特徴が。この地区の特徴として、どうしてもタクシーはまだまだ贅沢品ですと。むしろそれよりも家族に無理を言って送ってもらうほうが安いような感覚でいらっしゃる方が多いです。やはりそのあたりは経費の問題もあります。もう少し具体的なことを挙げれば、このあたりのイメージが変わるのではないかなという気がしてならない。

先ほども半額になるような割引だとかいうふうにおっしゃいましたけれども、例えば、例を先にいって悪いのですけれども、乗り合いタクシー的になって、500円あれば少なくとも地域の中は動けますよと。隣まで行くにはもう少し補助すれば乗り合いタクシーと一緒に乗りますから、十分ではないかなと。ましてや、どうしても行政の性格から仕方ないとは思いますが、加西市内の移動に関しては補助しやすい、また定時定路線であれば補助せざるを得ない。ところが、外出支援的なチケットでいけば、今、宇仁で言われているような市境を越えての移動も可能になる。それによって、国正や小印南の地区の生活圏である加東市内へも行きやすくなる。それが結果的には、元気な老人をつくることにもなるのかなと、そういう気がいたします。

以上です。

○議長 ありがとうございます。多分この間16のタクシー形式かバス形式かというのは、多分一般乗り合いかデマンドかということを知りやすく書いてあるだけでしょうか。

○委員 それで理解いただくのは難しいかもしれないですね。

○議長 余り細かいことではないと思います。ご意見ありがとうございます。ほかにご意見、ご質問いただければ。

○委員 多分、皆さんもうお気づきだと思いますけれども、全員に1つの方法で上手くいく方法があるわけではないだろうと思います。外出能力も人によって違いますし、それから行き先も多分違います。路線タイプで北条町につなげたとしても、孫の顔を見に行くのに孫が全員北条町にいらっしゃるとは思えませんし、やはり行く場所も違う。それぞれ人によって多分動きたい動き方は違う、あるいは動ける動き方が違うのだろうなと思います。

今聞いていただいて、我々にもそれは見えてきたように思いますので、委員がおっしゃったように、タクシーを活用するというのも一つの方法だと思いますし、あるいはもう少しまとめてというやり方もあるかもしれません、あるいは委員がおっしゃったように本当に交通機関の支援だけでいいのだろうかということもありますよね。ですから、そのところをどう継ぎ目なく、かつ人も、私の両親もまさにそうですけれど、年を重ねていくとだんだんとできること、したいことが変わってくるわけですね。周りの家族の状況もどんどん変わってきますし。ですから、無理なく次の方法に移っていきけるようなシームレスなやり方を考えていくとか、そういったものはこれから十分検討する余地があるのではないかなという気がします。

それで、例えば免許返納など、これまで車に乗っておられた方が急にシニアカーに乗られるわけでは多分ないだろうと思いますので、その間も移行できるようなものが幾つかあるといい。それで社会実験なんかもやったことがあるのですが、やはり決まったものに型にはめるという発想ではなくて、どういう型を用意したらいいのだろうかということを検討していくことが大事かと。これはもう感想ですけれども思いました。

○議長 ありがとうございます。今の仕組みだけが答えではなくて、本当にいろんな新しい技術がどんどん出てきていまして、そういうのもできるだけ私たちももっと勉強して、お役に立つような仕組みを一緒に考えて提案できたらいいなと思います。引き続きよろしくお祈いします。

○委員 もうちょっとだけ、先ほどの話の中で3割の方が歩行困難で1割の方は隣近所が限度だと。

○議長 100メートルほどと。

○委員 つまり、これは、いろんな路線を乗りかえて目的地へ行く乗り換えが困難な方の数字だと思います。だから、高齢者の方に一番言えることですが、やはり本当に玄関から出る行為、隣近所へ歩く行為、また路線バスで乗りかえる行為、それも一つ大きな障壁としてあると思いますので、つけ加えていただけたらと思います。

○議長 ありがとうございます。こういう聞き方をすると、行き方も行き先も病院と買い物施設というふうな回答が多いのですが、実際は友達と会いに行くとか、そういうものも多分聞き出してヒアリングしていくと出てくる可能性もあると思います。今回のアンケートは大きな質問から、大きな傾向をつかみ取るということで、2回目やっていたわけですが、人によって先ほど委員が言われたように、様々な思いをお持ちでしょうから、それをうまく次の形にしていくというのが、いろんな移動支援のメニューも考えて、あるいは新しい技術と組み合わせるということが必要になると思いますので、引き続きしっかりやりましょうということにさせていただきたいです。ありがとうございます。委員が言われたような、買物を自分たちのとこでやるというのも、地域の中で決めていくというのはすごくいい話で、そういうことを前提にどう支援してい

ったらいいのかということです。

○委員 参考までに、旅行とふるさと芸能大会で貸し切りバスを走らせています。旅行の場合は、村の1カ所で一番目につきやすい大通り、大きいバスの場合は、ふるさと芸能大会では車を何回か走らせているわけですが、やはりルートを決めるときが一番難しい。待つのがいやだというのが一つ。それからもう一つは、ふるさと芸能大会は福祉イベントだから、できるだけ近所に停まって欲しいと。年齢で考えると旅行へ行かれる方は元気ですけれども、ふるさと芸能大会は75歳から82歳ぐらいまでの人が来られる。だから、今度どういう方を対象にどうするかということによって村の中入って欲しいとか、村の中で2カ所は停まってほしいとかいう要望が非常に多い。それぞれ年齢層と目的が少し違う。旅行は自分で行くもの。ふるさと芸能大会は福祉目的だから、できるだけ近くへ来て欲しいというのと、一番困るのは、何とかバスを何台が組み合わせているのですが、要望に応えながら、バスを回そうと思うと費用がかかってしまうというのがちょっと悩みます。何とかまたこれも参考に。

○議長 ありがとうございます。いろんな事例というか、経験もまた共有できればありがたいと思います。では、報告事項については以上にさせていただいて、協議事項に移ります。協議事項を始める前に会長が到着されていますのでご挨拶をお願いしたいと思います。

○会長 議会の都合でこの会議に遅れまして申しわけございません。皆さんお忙しいところ今日のご会にご出席いただきましてありがとうございます。我々もいろいろ1年かけて事前調査をして、いろいろその結果から計画を策定しつつ、来年度からはそれを実行に移そうということになっていきます。いろいろと皆さんのご意見を聞きながら、今まで先生方にまとめていただいたところでございますが、最終的に今もお話を聞いていまして、公共交通という名のもとに我々が今から取り組むことの形はつくったけど、魂を入れずというような結果になっても困るし、かといって、公共交通といいながら端から端まで全部満足いくようにできる方法があるのかと言うと、これもまた難しい。高齢化社会が進む中で、どう取り組むかという事は本当に難しい課題だと思います。

地域内の公共交通については、ルートを決めて目的地へ行くということになれば、100メートル、50メートルも歩けない人まで全部それが1本でカバーできるかということそれは難しい。そういうときには、タクシーのような玄関から玄関までという方法も一つだと思いますし、一つの方法では解決しなくて、何通りかの方法をとらないといけないかもしれない。それとも地元の皆さん方の本当に心温まるサービスによって、満足できる方法があるかもしれない。地域によって交通量も違いますし、あるいは車の大きさによって運行できる道幅も違います。停留所を決めなくても、どこでも停まれるという地域も交通量の都合によっては可能性などあると思います。難しい問題かと思いますが、いろいろな方面から皆さんのご意見をいただいて、来年度の実施につながるようにご議論をいただくようお願いしたいと思います。

○議長 どうもありがとうございます。では、協議事項のほうに再び戻りたいと思います。協議事項の内容につきまして、加西市地域公共交通網形成計画の案ということで、事務局のほうから説明いただければと思います。

○事務局 協議事項の1、加西市地域公共交通網形成計画案についてご説明いたします。カラーの冊子で配っている資料をご覧ください。網形成計画案ですが、前回1月の対面協議の後、2月に書面での協議等を行いまして、委員の皆様から修正等いただいております。それ以外でも、体裁の変更ですとか、上位計画等とのすり合わせなど行っておりまして、パブコメ前後に修正を行っております。その主な修正箇所ご説明をいたします。

まず、5ページでございます。こちら人口推計ですけれども、2040年に3万5,000人ま

で人口が減少するという、これは国が推計しているもので、市の総合計画等の施策等を通じてこの人口減少に歯止めをかけていくということにしておりますので、上位計画等との整合性から、文章表記を変更しています。

続いて、6ページ、7ページです。地域別の人口と地域別の高齢化率を示している図ですが、これは27年度の国勢調査を使用しています。前回までの資料では500メートルのメッシュ統計を使っていましたが、今回は100メートルメッシュ、さらに詳しいメッシュデータが出てきましたので、より詳細なデータに差しかえています。同じく、28、29ページの図についても、500メートルメッシュから100メートルメッシュに差しかえています。それに伴い、ページ内の円グラフ、鉄道、バス勢圏等のバスの勢圏図の人口構成が変わっています。鉄道、バスの通っていない不便地域の人口が50%近くあったのですが、39.4%に少なくなりまして、高サービス地域、低サービス地域が増えています。

少し戻りまして、23ページ、24ページにコミバスの乗車人員と、29ページに、はっぴーバスの乗車人員をグラフにしています。これも最新のデータということで29年度のデータを見込みデータとして追加しています。41ページになります。ここに高齢者の移動特性のページを追加しています。これは新しく追加をしたページです。78ページ、79ページの計画に掲げている目標値の中で車を気軽に利用できないご高齢の方の趣味や外食等の愉しみな外出をしている人の割合ですとか、基本方針3の1つ目の目標として、交通手段がないために外出を控えている方の高齢者の割合といったものを目標値として掲げておりますので、その内容を示すためのものとして41ページを追加しています。

続きまして、42ページですが、このページ、今回パブコメを実施いたしまして、パブコメの結果を反映するページでした。資料としてお配りしているパブコメの実施概要の資料はを見ていただくと、今回2月13日から3月9日まで25日間の期間に、市内各公民館や交流センター、市役所及びウェブサイトで市民意見の募集を行いました。残念ながら皆様から特に意見が出てこなかったため、実施結果としては意見なしとしております。意見がなかったために、この計画内の42ページですが、パブコメの意見等は追加しておりませんが、これまでの意見等を反映しながら、少し内容を追加整理しています。

続いて、46ページをお願いします。都市計画マスタープランにおける将来都市構造図を入れていますが、今年度、都市マスの図を一部改正してしまして、この将来都市構造図が変わっておりますので新しい図に差し替えしています。大きな変更点としましては、地域結束拠点というものが各小学校区に設定されておまして、オレンジ色の丸になるのですけれども、これが一番大きな変更になるかと思えます。地域核ですとか都市核に接続する小さな拠点として機能強化を図っていくものとして都市マスでは位置づけております。

それに伴って50ページですが、都市マスの将来都市構造図の変更に伴って出てきている地域結束点ですが、網形成計画で定義をしている各地区における生活必須施設と関連が出てくる内容となっておりますので、交通の面からこの地域結束拠点の形成を後押ししていくという内容を50ページに追記しています。

少し飛びますけれども、76ページをお願いいたします。第5章の計画の実現に向けてというところで、市民、交通事業者、行政の三者連携の図を入れてあります。各三者のところにそれぞれの役割を記入してございましたが、読みやすくするため、文書につきましては下に別記しています。

さらに78ページ、79ページの目標値です。まず78ページの、車を気軽に利用できないご高齢の方の愉しみな外出をしている人の割合ですが、現状の6%から目標値を8%に変更しています。

もともと10%としていましたが、車を運転されている方と同程度になるようにということで8%に変更しております。また、基本方針1のコミバスの利用者数につきましても、先ほど現状値を見込み値に変えておりますので変更しています。

80ページですが、公共交通事業の評価のしくみのページですが、前回までのパブコメの資料では参考ページのようになりましたが、達成状況の評価ですとか、計画の見直しの中にきちんと組み込む形で構成を変更しています。また、中面と表紙の各ページですが、デザインを反映しています。表紙デザインにつきましては、高速バス、路線バス、北条鉄道、ねっぴー号、はっぴーバス、タクシーとそれぞれの公共交通機関をイラストで入れています。あと、乗ってイーナカサイというようなロゴを入れておまして、市の宣伝になりますけれども、こちらのロゴは市のプロモーション事業の一環で作成したロゴになっておまして、いろいろなバージョンがあり、市のさまざまな分野の事業で一貫して使うロゴとして作っていますので、公共交通としてもプロモーション参加のためにこのロゴを使っています。以上、網形成計画案の説明でございます。

- 議長 ご説明ありがとうございました。ただいまご説明いただきました加西市地域公共交通網形成計画の案につきまして、ご意見、ご質問いただければと思います。よろしく願いいたします。
- 委員 全体の話の中でも若干あったのですが、アンケートの中に表現がありました。この新たに網形成計画の中のタクシーは単にセダン型のタクシーだけですよというイメージがありまして、ただ1点、乗り合い型のワゴンタクシーというものがイメージとして欠落しているのではないかなと。実は、私も何年かここに参加させていただいていますけれども、加西市で今の若井や万願寺地区に交通を入れる当初は10人乗りのワゴンタクシーが想定されたような会議が続きました。ところが、実際スタートすると、10人乗りのバス、定時定路線のバスになってしまったということでフリー乗降等のとり方が非常に難しい。また、目的地も難しいということで、バスのまま来たわけですけれども、今の話でいいますとフリー乗降というよりもデマンド型ということがやはりなかなか出てこない網形成計画になっていると思います。そのあたりをもう少し組み入れていただける部分があればと思うのですが、いかがでしょうか。
- 議長 もう少し具体的に、例えばどこをどう変えたらいいというような提案はございますか。
- 委員 ページまで言いにくいですが、デマンド型乗り合いタクシーというものの選択肢がないかなと思うのですが。
- 議長 例えば、今たまたま開けると42ページにデマンド型乗り合いタクシーという言葉があります。これは市民の要望、改善意見ということの項目の中ですけれども、タクシーという項目があって2つありますけれども、上がデマンド型乗り合いタクシー、それからタクシーの利用割引、多分これはこの会議でお話された内容がこの中に出ていると思うのですが。
- 委員 2行は入っておりますけれども、他のまとめの中には全く出てこないです。提案の部分がありますね。恐らくこの2行だけかと思います。デマンド型の乗り合いタクシーという部分をあまり提案、前のアンケートもそうですけど、されてないのではないかなと思います。
- 議長 そこまでここで議論を余りできなかったですね。
- 委員 もし組み入れていただけるならですよ。だめと言われたらそれはもう余計な話になりますので。
- 議長 多分計画の中にいきなり入れると、ちょっと唐突感があるので、先ほどの42ページにこういう内容も載っているというのは、次の計画を見ていくときの、いわばヒントみたいになると思いますので、ここに少なくともこういう言葉を入れていただいていますので、それをベースに計画を考えていくというのは全然おかしくないのではないのでしょうか。多分デマンド型乗り合いタクシ

一がありますという話は、まだこの中でも余り議論されていないので、議論をしていくとしたらこれをベースに議論をして計画の中身をさらに詰めていくということにしているのです、何もない話ではないと。

○委員 前回もこの1行はあったのですけれど。アンケートを含めて前には出てこないものですか。

○議長 注意喚起をしていただいたということで、ありがとうございます。ほかにご意見、ご質問はございますか。

○委員 どこか具体的に入らないですかね。ぜひ入るといいなと思いながら一生懸命探しているのですが、ここというのがすぐに見つからなかったのです。

○議長 多分ここで余りそこまでの議論にならなかったのです、どこにいれましょうという話が出なかったのだと思います。多分それを入れるとすると、もうちょっと中身を考えてから入れたほうがいいと思います。これだけではなくて、PDCAサイクルも回しているときに新しいものを考えていくという話は当然この中に含まれているわけですから、ちゃんと議論してそれを入れていったほうがいいと思います。

○委員 あるいは、今思いついただけですけども、例えば開けたのは、54ページに施策体系つてありますね。そこに、例えば基本方針1、みんなが利用しやすい公共交通網の構築とあって、例えばその施策の1だと、各地区、最寄りの生活必須施設まで行きやすくする公共交通の整備というところに、何となくこの公共交通って路線バスとかそういうのをイメージしそうですから、「多様な公共交通の整備」と入れて、その「多様な」の中身は何かというと、今、委員がおっしゃったようなことも含むことを了解して、具体的にこれからいろいろ検討していくというようにすれば、一部入ってくるのではないのでしょうか。無理がありますかね。

○議長 例えば55ページの施策事業の対象になると、項目として乗りタクが余り出ていないものの、タクシーは項目として入れていただいている。乗り合いタクシーをすとかしないというのは、重要な決断だと思います。市としても、今までやったことがない。これまでやられているのなら、そういうやり方を拓げていきたいと思いますという話になると思いますが、やるとすると地域の皆さんとどういう仕方で、財源をどうするかという話も含めてきちんと決めていく方がいいと思います。言葉だけが先行すると後で違うとなると具合が悪いので、私はきちんと議論した上で、入れる方がいいかなと思うのですけれど。

○委員 正直、事前にアンケートを見たのですけども、どこが変わったのかわからなかったのです。

○委員 あるいは81ページに見直しを書いていますね。こここのところに、「より多様な検討を」みたいなことを入れていただくというのはどうでしょうか。そうすると、後で「より多様な」といったときに、議事録で見るとどういふ話でそういうことになってきたのかというのが、多分わかりいただけるのではないかなと。

○議長 今の話、例えばどこをどう修正すればいいでしょうかね。81ページの(3)番目ということですよ。

○委員 そうですね、例えば下から3行目、「加西市にふさわしい多様な公共交通網」というような。ちょっと安直過ぎるような気もしますが。

○議長 これも「ふさわしい」ということの中に今の「多様」は含まれている。入れるとすれば、むしろ「新しいタイプの情報技術をうまく組み合わせていく」とかいう話を考えたくないのですけれど、それも入れると際限なく形容詞が前につくので、ふさわしい公共交通網の検討でいいのかなと思うのですが。こういう議論があったということを議事録に残しておきましょう。

- 委員　　ちょっと大きな変化になるのかもしれませんが、81ページの(3)で、「社会情勢や技術の変化に対応した」と入れて、その技術に運行技術とか、そういうものを含めるのだという解釈をするというのはあるかもしれない。特に自動運転とかもありますので、技術の変化というのは書いておいてもいいのかもしれませんね。
- 議長　　そうですね、ありがとうございます。それにしましょう。タイトルで「社会情勢・技術の変化に対応した計画の見直し」ということでいきましょう。これは自動運転だけではなくて、バスロケであるとか、地域の皆さんがタブレット持っていただいて、こういう情報オタクみたいなことを言うのはあまりよくないですけど、運行情報を確認して、そうすると外で待たなくてもいいとか、そういう仕組みがいろいろ考えられると思いますので、それをできるだけコストかけずにやっていくというようなことも、どんどん技術は進んでいくので、そういうのを取り入れていきましょうというのもこの中に含まれているということですね。ほかにご意見、ご質問はございますか。
- 委員　　まず、高齢者の部分と、それから46ページの新しいページを見ていたら、都市核、地域核、地域結束拠点というのがあって、今後のまちづくりと公共交通がどうあるべきかというのが明確な形で出ています。それに伴ってこういう形で運営しますよというのが52ページに書いてあり、ありがたいなど、これはお礼を申し上げます。そこで、この資料のデータが平成22年になっていると思うけれど。例えば、37ページのデータの出典が2010年、難しいな。これしかなかったのかも知れませんが。
- 事務局　　公表されている直近のものが平成22年のパーソントリップ調査というところになりますので。
- 委員　　それは、そうだとすると、普通論文を書いたりするのに、ちょっと突かれるとしんどいかなと思いました。これは絶対入れないといけないのかな、22年と、今は30年なのに。ちょっと説明がしんどいのではないかなと思いました。他の人が思っていなくても、一般的に直近の資料を使うにしても、書かないといけないのなら仕方ないけれど。これは、私の単なる疑問です。
- それから、76ページ。根幹にかかわることなので聞きたいと思うのですが、この計画を実現するに当たって三者の連携」って書いてある。そして、「利用者である市民、運行主体者である交通事業者、計画主体である行政」というのをまず明確にしている。ところが、その市民の下の部分には必要に応じて主体的に実施するとなっているということは、市民も運行主体者になり得るということだと思う。その辺をしっかりと書いておかないと、例えば地域主体型のところには市民と市と書いてある。その辺の整合性がとれてないのではないかなと。もし市民もいわゆる地域主体と一緒にやりましょうというところで、あなたも運行主体になり得るという部分があるというのを明確に書くほうがいい。この上のところには、市民は単なる利用者と書くだけでなく、きちんと定義しておいたほうがいいのかなと思いました。
- 議長　　ありがとうございます。ご意見は2つですね。1つ目の質問は、私のほうで答えたほうがいいかもしれません。パーソントリップ調査が2010年のデータで、この古いデータは一体どういうことかと。
- 委員　　こういうものを仕上げるときに、7、8年と差があったときに、どうしたらいいかなと。一般的に論文を書くときに、10年も前の資料は大体使わないから。なければ仕方がないが。
- 議長　　これは10年に1回の調査です。近畿全体のパーソントリップ調査で、交通では、加西市だけのデータを調べても、先ほどから出ているように、人は加東市であるとか、姫路まで動いているので、近畿全体でこういう大規模な人の動きの調査をやるのですけれども、大変費用がかかるので10年に1回しか実際にはやっていない。多分どこのまちでも同じようなデータを使っておられ

るので、専門家の方がご覧になったら分かるとは思いますが、確かに市民の方が見られたら古いデータかなとお考えになるかもしれません。

- 委員 実際はそれほどデータの内容は変わってないと思います。ただ、年度だけ見て8年も前のデータを出しているなど言われたら仕方がない。
- 委員 直近の近畿圏パーソントリップ調査（2010年）としたらどうでしょう。
- 委員 そういうふう書いてもらったら。10年に1度だという部分もどこに。
- 議長 市民向けにはそう書いた方がいいかもしれませんね。
- 委員 そういうふう書いていたら、これが最新かなというように思います。せっかく力入れて作っているのに、年度だけ見られて突かれると。
- 議長 信憑性がないと思われかもしれない。
- 委員 根本の理論の方が大事なので、入れていただけたらありがたい。
- 議長 2点目が76ページの市民、交通事業者、行政ですね。これについて市民は利用者だけじゃないよというご意見ですけれども事務局はどうですか。
- 委員 利用者だけでもよいが、ここに書いてあることと若干整合性がとれていないので、上だけ読んだときにそういう言葉で書いて、それなら地域主体型の運行主体になり得ると言うときに、この3つの整合性がとれないので、その辺は頭の部分を少し変更しては。地域主体は市民と市と書いてある。ところが、三者連携では利用者であると書いてあって、これは整合性をとってほしいなど。
- 事務局 確かに、上で利用者である市民と書きながら、というところがあると思いますので、少し表現を変えたいと思います。
- 議長 今日決めないと、計画の承認がとれないので。例えばもう「利用者」を消したらどうでしょうか。「市民、交通事業者、行政」。細かいことは下に書いてありますから。余り中途半端な表現が出てくるよりいい。
- 事務局 上では括弧囲みだけの文言にさせていただくという事でいかがでしょうか。
- 議長 特に問題なければ、それでどうでしょうか。ほかにご意見、ご質問ございますか。
- 委員 17ページをお願いします。加西市における路線バスの概要というところで、恐らく16ページの右下に、平成30年3月現在という路線図が記載されていますので、それとリンクさせて運行本数が記載されているかと思いますが、4月1日の中国ハイウェイバスとウエスト神姫の高速バスのダイヤ改正に伴って、運行本数が変更することになります。それを反映されるのであれば、今から申し上げる本数に修正していただきたいのですけれど、よろしいでしょうか。  
では、申し上げます。中国ハイウェイバスの平日は54便となります。休日は52便となります。続いて、ウエスト神姫の高速バスは平日が36便、休日も36便となります。主な改正の内容だけ申し上げますと、中国ハイウェイバスはUSJ発の20時15分に変更していきまして、大阪駅発は今まで20時30分が加西方面の最終でしたが、21時発が最終になり本数が増えています。また、昼間の時間帯については数本ではありますが大阪伊丹空港を経由するバスを新設しています。  
以上で、簡単ではございますが修正点を申し上げました。
- 議長 ありがとうございます。もう4月になろうとしていますから、新しい情報ありがとうございます。
- 事務局 ちょっと先ほどそういう話が出たのですけれど、書き方としては30年3月末、先ほど頂いた情報を載せたほうがいいのかなどと思いながら、ちょっと他の内容と整合が若干とれないのかなど。
- 議長 表の下に書いておいたらどうでしょうか。

- 事務局　　そうですね。
- 委員　　それでしたら30年3月末の便数で、ウエスト神姫の分だけ平日が31ではなくて30です。そこでちょっと修正をお願いします。
- 議長　　いい方に改善されるのですから、新しい情報のほうが市民の人にとってもいいと思いますけれど。
- 委員　　4月1日予定と、書いていただいたら整合はとれる。
- 議長　　一応3月ということですね。
- 委員　　それをお願いいたします。
- 議長　　ありがとうございます。ほかには。
- オブザーバー　　パブリックコメントが実施されたものの意見がなかったということで、それについては、いい計画ができたから意見がなかったということなのかもしれませんが、ちょっと気になるところです。周知方法としてどの程度のことを今回されたのでしょうか。広報誌に掲載されたり、主要な駅やターミナルにこういう計画を立てていますのでということでパンフレットを置いたりなど、意見募集の目安箱を市役所だけでなく主要な駅にも置いておくというようなことをされている自治体もあります。やはり実際に計画が突然出てきて、意見照会をすると、あったのですかというふうなことになるかなど。市民のほうを向いている計画ではないのではと、もっと周知してくださいというお話にもなりかねないところがあるので、その辺の周知方法、具体的にどういうところまでされたのかちょっと教えていただきたいなと思います。
- 議長　　事務局よろしくをお願いします。
- 事務局　　加西市でパブリックコメントを実施する際は、まず広報誌に掲載して、いつでも計画や条例のパブリックコメントを募集しますという形でお知らせしています。また、こちらに記載があるように、各公民館、地域交流センター、それと市の担当課に設置し、かつホームページ上にも掲載しています。今回についてもこのような通常の方法でパブリックコメントを実施しています。
- オブザーバー　　ネガティブなご意見ではなく、「いい計画ができましたね」という市民からのありがたいご意見っていうのもなかったということですね、今回。
- 議長　　データとして残っているかどうかかわからないですけれども、問い合わせであるとか、あるいは閲覧状況みたいなものがもしあれば、また出していただければ、結果、意見がなかったのであれば、それはそれでなるほど、ということになると思いますけれど。余りにも何もないと、ちゃんとやっていないのかとなるのが気になりますので、そのあたり実際、何か現場でご感想など。
- 事務局　　実際に具体のお問い合わせについても特に承知しておりません。閲覧された方が何名というのもちょっと記録には残っておりません。
- 議長　　ここに幾つか場所があるので、公民館とか地域交流センターでもばらばらとでも見ていただければありがたかたいので、現場で、もし感覚といいますか、明確な数でなくてもこういうことあったというエピソードでもいいので、把握をしていただけたらありがたいと思います。ほかにご意見、ご質問いかがでしょうか。
- 委員　　これは公共交通網形成計画で国交省に提出する計画ですよ。今までの連携計画から網形成計画にするときに、こういう内容は入れてくださいという要件が示されていたと思います。それでこの確認は実は前回ちゃんとやっておくべきだったのかなと思って、議事録を見たらあまり書いてないので今、念のためお尋ねします。その要件を概ね満たしているのかどうかをちょっと確認しておきたいのですが、これはこの要件を求められているところにご判断いただくのが早いのではないかと思いますのでいかがでしょうか。

- オブザーバー 一応素案やデータをいただいて課内で検討した結果、要件は満たしているということですが。
- 委員 よかったです。ありがとうございます。
- 議長 よろしいですか。ほかにご意見、ご質問ございますか。大体議論も出尽くしたということではよろしいでしょうか。確認をしたいと思います。一応まだ案の段階ですので、先ほど出た順番でいうと81ページの(3)番目の見出しを、「社会情勢・技術の変化に対応した計画の見直し」とすると。それから現況調査のところで2010年パーソントリップ調査のデータというのがありますが、直近のパーソントリップ調査(2010年)と。それから76ページの市民の役割、交通事業者の役割、行政の役割のところで、利用者である、運行主体である、計画策定主体であるという本文中の言葉を取りましょうということで、市民、交通事業者、行政とシンプルに書きかえますと。それから、今、ご提案をいただいた4月1日からの新しい運行情報を17ページの表に入れて、表の下には2018年(平成30年)4月ということを入れましょうということでご意見をいただきました。以上をつけ加えるあるいは削除して加西市地域公共交通網形成計画とさせていただきたいと思いますが、ご承認いただけますでしょうか。ありがとうございます。では、これをもって先ほど話ございました国土交通省にも網形成計画として提出をさせていただくということになります。どうぞよろしく願いいたします。予定されている議題は以上でございます。全体を通して何かご意見ございましたら。よろしいでしょうか。では、事務局からご連絡等いただければと思います。
- 事務局 どうもありがとうございました。次回の協議会は次年度になります。新年度最初の協議会は、5月下旬から6月を予定しています。別途ご案内させていただきます。それでは、これで公共交通活性化協議会を終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。
- 議長 計画をつくるのが目的ではなくて、これを実現するのが目的ですので、皆さんどうぞ引き続きよろしく願いいたします。